



FC岐阜

株式会社岐阜フットボールクラブ

代表取締役社長 宮田博之

連載Vol.

66

## 山内寛史選手・服部康平選手・小山 新選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

やまうちひろふみ  
背番号 **9** FW 26歳

埼玉県入間市出身で両親と姉と弟の5人家族。父親の出身地である中津川市付知町は小中学校時代の春、夏、冬休みに“カニ取りや自然に親しんだ”懐かしい場所だ。国学院久我山高校から早稲田大学に進み、3年生の時に関東大学サッカー1部リーグで優勝を果たしたことは今も強く心に残っている。1学年約20人、全体で約80名のサッカー一部で毎年3~4名がプロ選手になる中でプロの道に入り、セレッソ大阪、FC町田ゼルビア、モンテディオ山形を経てFC岐阜に加入した。

富樫選手は高校の1学年後輩、吉濱選手とは町田で、本田選手とは山形で共にプレーした仲間だったこともあり直ぐに溶け込めた。毎日の練習や自主トレに加えて、練習試合の機会で大いに自分を鍛え、自身の進化を図っている。サッカーは体が資本であり、自分で決めた生活パターンで生活のリズムを維持している。大阪や町田のような都会のチームでは、生活パターンを崩すサッカー外の友人の誘いが多かったが、岐阜ではサッカーに集中出来ており自分の生活には一番合っている。

最近、姉に第1子の男の子が生まれ、見るたびに大きな成長に感動している。自分も30歳までにはとの夢だけは持っているが、まずはJ3優勝に向けてアグレッシブに躍動出来るよう自身の脱皮に切磋琢磨の毎日。頑張り Yamauchi !



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

はっとりこうへい  
背番号 **18** FW 30歳

東京都町田市出身で、これまで SC相模原、栃木SC、松本山雅FCに所属し、それぞれの市で生活してきたが、岐阜が自然と町のバランスが取れた一番住みやすい環境で快適に過ごせている。ファミリーパークは家族で一日楽しく過ごせ、また行きたいと思う場所だ。

チームの中では、Jリーグのすべてのカテゴリーを経験してきた数少ない選手なので、まだ上位リーグを知らない若手の選手達に、上位リーグでも戦えるように、その厳しさなどを折に触れて話している。このチームの全員が優勝してJ2で戦う気概に燃えており、安間監督の指導のもとで切磋琢磨しながら練習をしている。また、全員が終わってからも自分のコンディションに合わせた自主練習に励んでおり、非常に良い緊張感にあふれている。一方、クラブハウスでは和気藹々とした会話があふれており、ONとOFFがしっかり両立した素晴らしい環境で過ごせている。

信条は『諦めないこと』であり、小さなことに一喜一憂しないで首尾貫徹。平素は大雑把であるが、サッカーでは大胆さも持ち合わせたFWでありDFでもあり、今後の活躍が大いに期待される。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

こやま あつた  
背番号 **26** DF 23歳

青森県六ヶ所村出身で両親と2人の妹の家族の中で、7歳からサッカーを始めた。全国から生徒の集まる青森山田中学、高校を卒業した数少ない地元生徒である。高校3年生の冬には、諸先輩のどのチームもなし得なかった全国高校サッカー選手権大会で初優勝を勝ち取ったメンバーという輝かしい経歴の持ち主である。この学校からは多くのプロサッカー選手を輩出してきており、FC岐阜では現在大活躍中の川西選手も橋本選手もこの高校の先輩であると言えば、凄さがお判りいただけるでしょう。

その後関西大学に進むが、進学前に大きなケガをして4カ月間治療に専念したことが、更にメンタルの強い新(アラタ)に進化させ、また部員約200名のキャプテンをしてきたことが自分のリーダーシップを成長させることに繋がった。先月号で紹介した松本歩夢選手(MF)は大学同期で、お互いに無二の親友と言える中で、共にFC岐阜でプロ選手になった良き仲間であり良きライバルでもある。

かつての全国高校サッカー優勝体験時は最上級生として指導的立場で頑張ったが、今は同じプロ選手としてイーブンな関係で実力を発揮して優勝に貢献できるように一生懸命トレーニングに励んでいる。信条は『人と人との繋がりを大事にして、常に感謝の気持ちを持つこと』であり、様々な成功体験、苦節体験から近い将来にはリーダーシップを発揮できる器であり、大いに期待している。